

# 夢と希望があふれる塩竈へ！

## ～第15回塩竈こどもゆめ議会開催～

11月10日(日)、小学6年生15人が「こども議員」として、塩竈のまちづくりを真剣に考え、市長と議論しました。たくさんの夢と希望が詰まった提案の中から、2つの党の代表質問を紹介いたします。



### 浦戸諸党

「季節に左右されない浦戸観光」



なのっちー

#### 提案

1つ目は、観光マップの改訂です。復興工事で通行不可能な道など浦戸の実態に合ったものにし、浦戸の伝説を反映させた新しい地図を作ってはいかががでしょうか。2つ目は、島の各所にQRコード付きの立て札を立てます。現在地だけでなくその土地の説明を読み取ることができ、外国の人にも親しみやすいツールだからです。

3つ目は、浦戸の伝説のドラマ化です。これにより浦戸への注目度を高め、交流人口増加のきっかけになると考えます。

これらの提案は、浦戸諸島全体の復興工事が完了が前提となります。浦戸の魅力を伝えていくためにも早急に工事を完了して欲しいです。

#### 市長からの回答

島歩きマップについて、島民の皆さんや、浦戸諸島を訪れる人たちが安心して島歩きができるように、最新の情報を掲載していきたいと思っています。

QRコード付きの立て札について、国や県で設置した案内板は再整備をすすめるという話も聞いています。その際にはQRコードを追加して、外国語対応も進めるように話をし、市でも案内表示を工夫していきたいと思っています。

浦戸の伝説をドラマ仕立てに制作し広く見ってもらうという提案はとても面白いと思います。大がかりな仕事になるので実現する方法を話し合っていきたいと思っています。そのときは、皆さんからのアイデアもお願いします。

浦戸諸島の復興工事を早く完了できるように市役所全体で取り組んでいきます。

### お弁党

「誰もが安心して安全に過ごせるようなまちに」



桜菓子姫

#### 提案

1つ目は「放課後の使い方」についてです。地区で使われている集会所などを使用し、地域の人たち、元気なお年寄りの人たちに程よい距離で見守っていただくとお互いふれあうことができると良いと思います。

2つ目は、災害時避難所の生活についてです。配慮が必要な人の中には遠慮して避難しない人もいます。遠慮する必要がなくなるように、避難所となる学校の外周にスロープを設置したり、点字や手すりをつけたりするなど工夫が必要ではないでしょうか。

さらに緊急時には、設備が整っているデイサービス施設の避難できるようにしてはいかがでしょうか。

#### 市長からの回答

子どもたちと一緒に過ごすことは、お年寄りたちもとても楽しいと思います。ただ、中にはどう接すればよいかわからないという声もあるので、見守っていただくだけでなく、一緒に活動できる仕組みにしてはいかがでしょうか。多世代が集う場所は、皆さんだけではなく地域の人のためにも居心地のいい空間になると思います。

避難所については、特別な配慮が必要な方専用の「福祉避難所」として使えるよう、市内の福祉施設にお願いしています。ほかにも助けが必要な方の名簿を作成し町内会長や民生委員の方たちに情報提供しています。

体育館の改修などを行うときにスロープの設置やガイドマップの作成も検討していきたいと思っています。



#### 浦戸諸党

代表  
うつみ たいほう  
内海太豊さん  
(浦戸小6年)

この党名には、私たちが浦戸の魅力を発信し、塩竈の観光資源として、この島々の良さをより多くの人たちに知ってもらいたいという思いが込められています。



#### お弁党

べん とう  
代表  
すずき あいか  
鈴木愛佳さん  
(浦戸小6年)

この党名の「弁」という漢字の意味には喋る、話し方が上手という意味があります。私たちもみんな話合い、相手に伝わるような話し方をすると意味でこの党名にしました。

